

生活科部門

☆総評☆

自分たちの身近なところから問題意識を広げていった、質の高い作品が、今年もたくさん集まりました。机の上の勉強のみにとどまることなく、自らの体験に基づいて追究していくこうとする姿勢は、大変すばらしいものです。このような子供らしさに満ちあふれた、不思議に思うことを知ろうとする意欲は、例えば、ある生き物を飼ったなら、まずその生き物を「好きになる」ところから生まれ、その気持ちを育てていくことが、作品を生み出す第一歩となるのです。また、今回は表現力に優れた作品も見られ、次回が期待されます。

文部大臣奨励賞

「小さなきゆうけつき か
—さされないために—」

岐阜県柳津町立柳津小学校

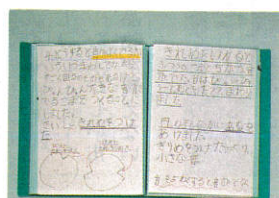
二年 浅野 沙織



生活に根ざしたテーマに取り組み、動機
のしっかりとした、内容の深い作品です。表
やイラストを使って、観察の結果がわかり
やすくまとめられています。特に、「なぜ蚊
にさされるのか」という問題について、お
父さん、お母さんをはじめ、家族ひとり
ひとりに意見を求め、それぞれの意見に対
して疑問を持って、それらを解決しようと実
験を試みている点が非常に良かったと思
います。



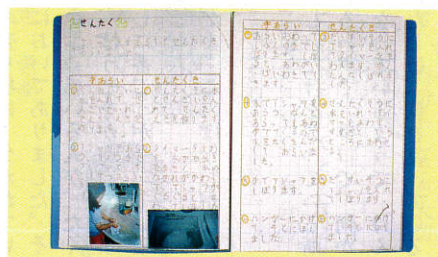
優秀賞



「だいすきなびゅんぎゅんごま」
岐阜県岐阜市立長良西小2年
伊藤はるみ

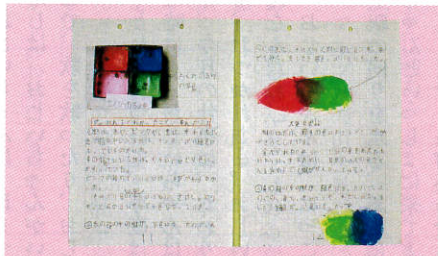
同じように作ったのに、よく回
るびゅんぎゅんごまと回らないも
のがあり、なぜだろうと思って、
その秘密を調べています。紙の種
類や厚さ、大きさなどを工夫した
結果、厚さ2〜3ミリで直径4セ
ンチのものが一番よく回ることが
わかりました。たくさん回ることが
一度に回すことにも成功しました。

「はじめてのたいけん」
岐阜県柳津町立柳津小二年
後藤綾乃



自分の体験がにじみ出ている立派な作品です。お母さんに
教えてもらいながら、トイレ、玄関、風呂そうじ、せんたく
など、初めて体験したことについて、準備するものややり方、
その感想がまとめられています。どういうところに気をつけ
たらよいかなどが細かく書かれた、生活の「辞書」です。

「蛙はどんな色になるか、ど
んな色が好きか、きらいいか。」東
京都聖徳学園小二年 小山右文



蛙は茶色や黄緑の葉と同じ色になると本にあったが、他の
色だと蛙はどうなるかと思ったことがきっかけです。黄緑色
の蛙が、赤い箱の中で茶色っぽくなったので、絵の具の赤と
黄緑をまぜてみたら茶色になるという「大発見」をし、また
蛙が住むのには色よりも場所のほうが重要だとわかりました。

その他の受賞作品

- ◆優良賞 「きゆうけつき」が大人へんしん(柳津町立柳津小一年) 黒岩美陽 「シャボン玉とあそぼう」(柳津町立柳津小二年) 奥村智永子 「食べもののくさるようす」(明星小二年) 岡本怜士 「朝ねうら朝顔くんにあえるまで」(瑞浪市立瑞浪小三年) 土屋範果
- ◆佳作 「おはようあさがおきさん」(瑞浪市立瑞浪小一年) 近藤麻子 「かいわれだいこんのけんきゆう」(各務原市立蘇原第一小一年) 篠田孝彰 「なつやすみ ぼくのいきものにつき」(板取村立板取第一小一年) 市谷尚久 「おもしろい点字」(聖徳学園小二年) 阿部礼奈 「ナガサキアゲハ ナミアゲハのかんさつ」(白百合学園小二年) 大庭夏実 「アゲハのかんさつ」(茅ヶ崎市立東海岸小二年) 石黒秋江 「じゃぱんだま」とそぼう(岐阜市立長良西小二年) 布目敦實 「おこめはたね」(柳津町立柳津小二年) 坂井田悠介 「今のひとと駅 昔のひとと駅」(東京学芸大学附属小金井小三年) 久保吉之助 「へちまさん大きなみをつけてね」(板取村立板取第一小三年) 三島利香 「水にうく物しずむ物」(柳津町立柳津小三年) 坂井田孝之